

第 12 回 全国史料ネット研究交流集会 in 高知 開催概要

日時：2026 年 1 月 11 日（日） 13：30～17：00
1 月 12 日（月・祝） 9：30～14：30

会場：オーテピア高知図書館 4 階 研修室・集会室
（高知県高知市追手筋 2-1-1）
対面＋オンライン（ハイフレックス方式）

【主催】第 12 回全国史料ネット研究交流集会実行委員会

人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用
機関ネットワーク事業」

【共催】高知地域資料保存ネットワーク

こうちミュージアムネットワーク

科学研究費補助金学術変革領域研究（A）「歴史学研究成果の共有と「水平展開」」（課題番号
25H01241、研究代表：天野真志）

【後援】独立行政法人国立文化財機構文化財防災センター、高知県、高知県教育委員会、甲州史料調査会、NPO 法人宮
城歴史資料保全ネットワーク、山形文化遺産防災ネットワーク、そうま歴史資料保存ネットワーク、ふくしま
歴史資料保存ネットワーク、茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク、とちぎ歴史資料ネットワーク、
那須資料ネット、群馬歴史資料継承ネットワーク、NPO 法人歴史資料継承機構じゃんぴん、千葉歴史・自然資
料救済ネットワーク、北総地域資料・文化財保全ネットワーク、地域史料保全有志の会、信州資料ネット、新
潟歴史資料救済ネットワーク、いしかわ歴史資料保全ネットワーク、東海歴史資料保全ネットワーク、歴史資
料ネットワーク、歴史資料保全ネット・わかやま、山陰歴史資料ネットワーク、岡山史料ネット、広島歴史資料ネッ
トワーク、歴史資料ネットワーク・徳島、愛媛資料ネット、熊本被災史料レスキューネットワーク、宮崎歴史
資料ネットワーク、鹿児島歴史資料防災ネットワーク、高知新聞社、朝日新聞高知総局、毎日新聞高知支局、
読売新聞高知支局、NHK 高知放送局、RKC 高知放送、KUTV テレビ高知、KSS さんさんテレビ、エフエム高知、
KCB 高知ケーブルテレビ



歴史文化資料保全の大学・
共同利用機関ネットワーク事業

Inter-University Research Institute Network Project to Preserve and Succeed Historical and Cultural Resources

【開催趣旨】

日本列島の南側に位置する南海トラフにおける巨大地震は、いつ発生してもおかしくないと言われ、その被害は、広範囲、そして甚大なものになると想定されています。今回の研究交流集会の会場である高知県をはじめ、各地に残された多様な地域の歴史に関わる資料もその例外ではありません。

そこで、今回の研究交流集会では、記憶にも新しい能登半島地震、発生から間もなく15年が経とうとしている東日本大震災の経験から、地域に残された歴史資料の保存継承活動について改めて考えます。また、高知においては、様々な団体や組織が、歴史資料の保存継承活動を行っており、そこでの成果や達成を確認し、さらには活動の課題を発見し、地域の歴史資料保存活動について、参加者と共に考える場になることを期待しています。これまでの経験に学び、これからの活動の見通しを得ることを目指します。

第12回全国史料ネット研究交流集会 in 高知 プログラム

1日目 1月11日(日)

13:00 開場

13:30 開会

総合司会：濱田実侑（こうちミュージアムネットワーク／高知市立自由民権記念館）

13:30～13:40

開会挨拶：木部暢子（大学共同利用機関法人人間文化研究機構機構長）

筒井秀一（こうちミュージアムネットワーク会長／高知市立自由民権記念館長／
第12回全国史料ネット研究交流集会実行委員会委員長）

13:40～13:50

趣旨説明：筒井秀一（こうちミュージアムネットワーク会長／高知市立自由民権記念館長／
第12回全国史料ネット研究交流集会実行委員会委員長）

13:50～16:15

第1セッション：これまでの災害経験と南海トラフ巨大地震 …………… 4 頁

報 告：本多俊彦（金沢学院大学）

「能登半島地震における文化財レスキューの課題」

天野真志（国立歴史民俗博物館）

「東日本大震災における文化財レスキューの経過と現在」

楠瀬慶太（高知地域資料保存ネットワーク／高知工業高等専門学校）

「GISで読み解く高知県の民間所在資料―南海トラフ地震に備えてできること―」

司 会：田井東浩平（こうちミュージアムネットワーク／高知県立高知城歴史博物館）

16:30～17:00

全体討論

2 日目 1 月 12 日（月・祝）

9:00 開場

9:30～11:30

第 2 セッション：多様な地域資料と保存継承活動 8 頁

- 報告：田井東浩平（こうちミュージアムネットワーク／高知県立高知城歴史博物館）
「こうちミュージアムネットワークの歩みとこれから―来るべき自然災害に備えて―」
望月良親（高知地域資料保存ネットワーク／高知大学）
「高知史料ネットの 10 年とこれから」
小林和香（特定非営利活動法人地域文化計画）
「事業受託による資料保存活動―官と民のはざま―」
吉本エ心（土佐清水市立市民図書館職員）
「学校資料の保存と活用―土佐清水市の事例を中心に―」
小林兆太（高知県歴史文化財課高知県史編さん室）
「高知県史編さんにおける民具調査―中土佐町久礼の事例から―」
谷地森秀二（越知町立横倉山自然の森博物館／高知に自然史博物館をつくる会）
「高知県に県立自然史博物館をつくりたい」
北山めぐみ（高知工業高等専門学校）
「歴史的建築総目録データベースと四国におけるワーキンググループの活動」
水松啓太（高知県立高知城歴史博物館）
「南海トラフ地震をめぐる歴史研究と歴史実践―企画展「高知の地震災害史―紡がれた記憶と記録」の成果から―」
- 司 会：楠瀬慶太（高知地域資料保存ネットワーク／高知工業高等専門学校）

11:30～12:30

ポスターセッション

13:00～14:00

総合討論 17 頁

- 司 会：楠瀬慶太（高知地域資料保存ネットワーク／高知工業高等専門学校）

14:00～14:20

- 閉会挨拶：小幡尚（高知地域資料保存ネットワーク会長）
若尾政希（大学共同利用機関法人人間文化研究機構機理事）

14:30 閉会

第Ⅰセッション：これまでの災害経験と南海トラフ巨大地震

【趣 旨】

高知県は、南は太平洋に面し、北は四国山地を抱える。平時は、カツオをはじめとする海の幸、豊富な山林資源などを与えてくれるが、近いうちに発生が想定されている南海トラフ巨大地震によって、津波は人々を襲い、山間部では土砂崩れが起きるなど、多くの困難が生じ、地域の歴史資料も多大な被害が想定されている。

このような状況を受け、第Ⅰセッションでは、近年発生した大規模な地震の経験から学び、今後の資料の保存継承活動について考えていきたい。2024年の能登半島地震、2011年の東日本大震災を具体的な事例として取り上げる。加えて、高知県内で取り組んでいるGISを利用した民間所在資料の被災リスク分析についても紹介し、災害と資料保存継承活動について考える一助としたい。

【報告者】

本多俊彦（金沢学院大学）

天野真志（国立歴史民俗博物館）

楠瀬慶太（高知地域資料保存ネットワーク／高知工業高等専門学校）

【司会者】

田井東浩平（こうちミュージアムネットワーク／高知県立高知城歴史博物館）

金沢学院大学

本多俊彦

令和6年能登半島地震の文化財レスキューに少しでも協力すべく、金沢大学の上田長生氏や報告者らは「いしかわ史料ネット」を設立した。被災文化財の救出活動は現在、救出そのものから応急処置や整理などへと移行しつつあるが、これまで参加してきたレスキュー活動や現在進めている資料整理などを通して強く感じるのは、石川県の文化財行政の抱える問題点である。

令和6年能登半島地震は能登半島先端の珠洲市を震源として発災し、奥能登地方を中心に能登半島全体に深刻な被害をもたらした。一方、この地域では平成19年にも地震を経験している（平成19年能登半島地震）。輪島市を震源としたこの平成19年能登半島地震は輪島市や穴水町、珠洲市、七尾市などを中心に大きな揺れを観測したが、大きな被害が集中していたのは半島先端地域であった。石川県ではこの平成19年の経験を糧に、地震発災時への県としての有効な体制づくりが進められることのないまま、令和6年能登半島地震に直面してしまったように感じている。実際、令和6年能登半島地震において文化財レスキューの中心を担ってくれたのは独立行政法人国立文化財機構文化財防災センターであったが、石川県の動きは極めて鈍かった。

平成19年と令和6年の文化財レスキューについて、あくまで報告者の目線ではあるが、若干の報告をさせていただくことで、石川県以外の地域における有事の際の体制づくりなどの一助となれば幸いである。

【報告者プロフィール】

本多俊彦（ほんだ・としひこ）

金沢学院大学・文学部・教授。1972年高知県高岡郡佐川町生まれ。

専門：日本中・近世史、日本古文書学。

高岡法科大学准教授などを経て現職。学生時代は東寺百合文書などの東寺旧蔵文書を中心とした研究に取り組んでいたが、金沢の旧家（加賀藩関係）へ婿入りしたことを機に加賀藩研究や近世大名家発給文書の古文書学的検討などを手掛けるようになった。

主な論文は「加賀藩知行宛行状の古文書学的検討」（『加能地域史』第56号、2012年）、「福井藩の知行宛行状について」（『古文書研究』第80号、2015年）など。

国立歴史民俗博物館

天野真志

地域社会における災害対策として文化財レスキュー活動が実施されている。1995年阪神・淡路大震災を直接の契機として各地で進められるレスキュー活動は、現在に至るまで多くの蓄積を有しているが、各地で展開される被災対応のなかで、長期にわたる活動のあり方が課題となっている。特に救出された被災資料の継承に関しては、被災地における所蔵者・関係者との対話を始め、どのようなかたちで地域に位置づけていくか、持続的な検討が求められる。

2011年3月に地震・津波被害を受けた各被災地では、大規模な文化財レスキューによって多くの被災資料が救出された。その後、専門機関等との連携を通して被災資料の応急処置や本格修理に向けた検討と実践が重ねられているが、10年以上におよぶ活動の過程で救出の経緯やその目的、継承に向けた見通しなどに関して多くの課題を抱えている。本報告では、報告者が関わっている宮城県亘理町における活動を中心に、現状の課題および今後の展望について考えてみたい。

【報告者プロフィール】

天野真志（あまの・まさし）

国立歴史民俗博物館・准教授。1981年島根県浜田市生まれ。

専門：日本近世・近代史、資料保存。

東北大学災害科学国際研究所助教などを経て現職。

地域歴史資料の保存・継承に向けた取り組みを通して、各地域における歴史文化と人びととの関わりについて考えている。また、歴史文化継承のための多様な連携構築を目指している。

主な著書は『幕末の学問・思想と政治運動』（吉川弘文館、2021年）、『地域歴史文化継承ガイドブック』（共編著、文学通信、2022年）、『地域歴史文化のまもりかた』（共編著、文学通信、2024年）など。

高知地域資料保存ネットワーク／高知工業高等専門学校

楠瀬慶太

南海トラフ地震で甚大な被害が予想される高知県では、近年大規模な災害が発生しておらず、被災後の文化財レスキューのノウハウが少なく、体制づくりも課題になっている。加えて少子高齢化が急速に進み、その現状から「限界集落」という学術用語が提起されたように、集落の縮小化・消滅による地域文化の忘失が進んでいる。こうした中で、古文書や民具、標本、建築物などの民間所在文化財の保護が大きな問題となっている。

本報告では、高知地域資料保存ネットワークが取り組む「地理情報システム」(GIS)を用いた民間所在の歴史資料の把握と災害時の被災リスク分析について紹介する。高知県では、津波による家屋の流出や長期浸水が予想されており、所在場所を位置情報として把握しておくことは重要である。さらに、災害発生前の資料所在地の被災リスクを事前に把握し、文化財レスキューの優先度をトリアージする「文化財防災」の取り組みも進めている。

また、取り組みを民間所在の自然史資料や歴史建造物にも広げ、日常および災害時の各分野間の連携にオープンリソースとしての GIS が果たす役割についても問題提起してみたい。

【報告者プロフィール】

楠瀬慶太（くすのせ・けいた）

高知工業高等専門学校准教授。高知地域資料保存ネットワーク事務局・会計。1984 年高知県香美市生まれ。

専門：中世史、日本村落史。

高知新聞記者を経て 2025 年から現職。「高知資料ネット」や「高知県の学校資料を考える会」など市民団体の結成・運営に関わる。「市民科学による地域文化資源の継承」をテーマに所蔵者や市民と連携した活動を進めている。主な論文は「GIS を活用した地域資料の現地保存支援—高知資料ネットモデルと南海地震への備え—」『ESTRELA』372 号など。

第2セッション：多様な地域資料と保存継承活動

【趣旨】

様々な契機により、高知県内においては、地域に関わる資料の保存継承活動が行われている。それは、歴史分野のみならず、美術、建築、民俗、生物など多様な分野に及ぶ。その活動主体も自治体によるもの、民間によるもの、民間と一口に言っても NPO 法人やボランティアベースなど、多くの形態が存在する。活動自体は、別個に実施されているが、その悩みや問題点など、共通するものも多くあるはずだろう。それは、高知県外で活動している諸団体においても同様と考えられる。

高知県内で地域資料の保存継承活動をしている8つの団体などに、その活動や今後の展望などについて、紹介していただき、南海トラフ巨大地震を見据え、これからの地域資料の保存継承活動について、各地域のみなさんと一緒に思索していきたい。

【報告者】

田井東浩平（こうちミュージアムネットワーク／高知県立高知城歴史博物館）

望月良親（高知地域資料保存ネットワーク／高知大学）

小林和香（特定非営利活動法人地域文化計画）

吉本工心（土佐清水市立市民図書館職員）

小林兆太（高知県歴史文化財課高知県史編さん室）

谷地森秀二（越知町立横倉山自然の森博物館／高知に自然史博物館をつくる会）

北山めぐみ（高知工業高等専門学校）

水松啓太（高知県立高知城歴史博物館）

【司会者】

楠瀬慶太（高知地域資料保存ネットワーク／高知工業高等専門学校）

こうちミュージアムネットワーク／高知県立高知城歴史博物館

田井東浩平

こうちミュージアムネットワークは、文化施設同士の情報共有と現場で働く職員の資質向上を目的に、平成 15（2003）年に発足。公立、民間を問わず、文化活動に携わる幅広い分野の施設や研究機関、個人等が参加し、多彩な活動を行ってきた。本報告ではこれまでの歩みを振り返りながら、災害発生時において当ネットワークが果たすべき役割と可能性について紹介する。

【報告者プロフィール】

田井東浩平（たいとう・こうへい）

こうちミュージアムネットワーク／高知県立高知城歴史博物館資料保存修理室長。1979 年、兵庫県姫路市生まれ。

2005 年同館前身の土佐山内家宝物資料館に勤務し、2018 年より現職。保存担当学芸員として同館の保存業務全般に従事し、こうちミュージアムネットワークでは地域資料調査部会の一員として、高知県の地域資料保存に取り組んでいる。

高知地域資料保存ネットワーク／高知大学

望月良親

高知地域資料保存ネットワークが、2016 年に設立してから、10 年を迎える。当初は、戦争に関わる資料の保存活動を行っていたが、その後、対象資料を広げるなどして、現在に至る。これまでの活動や高知県内において実施されてきた史料所在調査などを振り返り、今後の地域資料保存活動の見通しを本報告では得たい。

【報告者プロフィール】

望月良親（もちづき・よしちか）

高知地域資料保存ネットワーク／高知大学教育学部准教授。1981 年、山梨県生まれ。

専門：日本近世史。

高知に来て、8 年が経とうとしています。最近では、高知県史をはじめ、自治体史の編さんにも関わるようになり、資料の保全継承について考える日々です。高知資料ネットとの連携も模索しています。

特定非営利活動法人地域文化計画

小林和香

2019年に博物館等で学芸業務に携わってきた仲間たちと、特定非営利活動法人地域文化計画を立ち上げ、地域での文化芸術活動の振興・支援を目的に、企画展開催支援や文化セミナーの開催、美術資料等の保存・修復などを行ってきた。その中で、自治体等が収集、所蔵している文書資料の目録作成や翻刻も委託されて行っている。地域資料の収集保存の次の段階として、資料活用、公開を進める一助になることを願っている。

【報告者プロフィール】

小林和香（こばやし・わか）

特定非営利活動法人地域文化計画副理事長。高知県安芸市生まれ。

元安芸市立歴史民俗資料館、書道美術館学芸員（委託職員）。現在は、安田町まちなみ交流館・和の文化振興企画員、安田町史編さん委員など。

土佐清水市立市民図書館

吉本エ心

土佐清水市では 2020 年から高知県の学校資料を考える会（以下「考える会」）と協働し、旧大津小学校の学校資料をレスキューした。成果は冊子にまとめられ、その後、市史編さん事業と合流して市内学校日誌の悉皆調査につながり、『新土佐清水市史』（2024）資料編に学校日誌の章が加わった。その他、県立公文書館での資料展示や、市民図書館で学校日誌を用いた歴史講座の開講など、学校日誌の資料的価値の普及啓発活動を行っている。

【報告者プロフィール】

吉本エ心（よしもと・こうしん）

土佐清水市立市民図書館職員。1985 年、高知県土佐清水市生まれ。

2020 年より土佐清水市教育委員会生涯学習課市史編さん室にて勤務ののち、2024 年より現職。

市史編さん事業の一環として、土佐清水市内に残る学校資料の保存・活用に関わる。

高知県史編さん室

小林兆太

新たな高知県史民俗編に向けた調査では、県内各地に保管されている民具資料もその対象となっている。例えば中土佐町久礼では、港の倉庫に集められていた合計796点の民具資料群に対し、令和5年から6年にかけて資料写真の撮影と目録作成を目的とした調査が行われた。県内外の専門家や大学生も参加したこの調査について、その模様を報告する。

【報告者プロフィール】

小林兆太（こばやし・ちょうた）

高知県史編さん室 主査。1995年東京都豊島区生まれ。

神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科にて民俗学を専攻。令和4年度から高知県歴史文化財課県史編さん室にて民俗部会担当職員として勤務している。

越知町立横倉山自然の森博物館／高知に自然史博物館をつくる会
谷地森秀二

令和3年に実施された高知県内の自然史科学標本調査によって、現在本県には多種多様な自然史標本があることが分かった。しかしながら、その保管状況は芳しくなく、必ずしも永続的に本県に存在し続けられる状況ではないことが判明している。貴重な資料の散逸や県外流失を防ぎ、これらの標本を基に情報発信や研究を行うための施設である自然史博物館の設立に向けて取り組んでいる活動を紹介する。

【報告者プロフィール】

谷地森秀二（やちもり・しゅうじ）

越知町立横倉山自然の森博物館学芸員／高知に自然史博物館をつくる会代表。1967年、宮城県仙台市生まれ。

専門：哺乳類学。

2001年に高知県須崎市に移住。四国の生物について調査研究活動を展開するNPO法人四国自然史科学研究センターの設立にかかわり、四国の生物情報を標本とともに残す活動を続ける。2019年より横倉山自然の森博物館学芸員として勤務。2024年には高知県に県立自然史博物館をつくるための任意団体「高知に自然史博物館をつくる会」を立ち上げる。

高知工業高等専門学校

北山めぐみ

南海トラフ地震に備えて四国内の歴史的建造物のデータベースを整備するため、2024年に建築学会四国支部内にワーキンググループを立ち上げました。今大会では、建築学会におけるデータベースの整備・活用状況と、四国内組織における活動状況について報告します。

【報告者プロフィール】

北山めぐみ（きたやま・めぐみ）

高知工業高等専門学校准教授。1983年、兵庫県神戸市生まれ。

専門：建築学。

ヘリテージマネージャーとして高知県内を軸に、四国内の歴史的建造物や町並みの保存・活用に関わる活動に取り組んでいます。

高知県立高知城歴史博物館

水松啓太

企画展「高知の地震災害史—紡がれた記憶と記録—」の取り組みを報告。主に南海トラフ地震に関する資料調査の成果と黒潮町田野浦地区における安政南海地震の口承行事「大潮まつり」での実践を紹介する。

【報告者プロフィール】

水松啓太（みずまつ・けいた）

高知県立高知城歴史博物館学芸員。1998年、岡山県倉敷市生まれ。

専門：日本近世史。

現職で5年目を終えようとしています。近世・近代に発生した南海トラフ地震を主として、災害研究に取り組んでいます。ほか、高知県の学校資料を考える会にも参加し、地域資料の保存活動などを考えています。

総合討論

【総合司会者プロフィール】

濱田実侑（はまだ・みゆ）

高知市立自由民権記念館学芸員。1991年、高知県黒潮町生まれ。

専門：教育学（教育普及）。

2018年より現職、学芸業務全般を担当しています。個人的には地元の歴史資料の行く末も気がかりで、微力ながら何かできることはないか模索中です。

【司会者】

楠瀬慶太（高知地域資料保存ネットワーク／高知工業高等専門学校）

ポスターセッション

団体名・タイトル ※タイトルの記載は主催者側で印刷をした団体に限ります

1：文化財防災センター

2：山形文化遺産防災ネットワーク

「山形文化遺産防災ネットワークの活動報告 2025（令和7）年」

3：ふくしま歴史資料保存ネットワーク

「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」

4：そうま歴史資料保存ネットワーク

「そうま歴史資料保存ネットワーク」

5：茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク

「2025 茨城史料ネットの活動から—令和元年那珂川水害レスキュー史料から—」

6：とちぎ歴史資料ネットワーク

「とちぎ歴史資料ネットワーク」

7：那須資料ネット

「那須資料ネット」

8：群馬歴史資料継承ネットワーク

「群馬歴史資料継承ネットワーク」

9：千葉歴史・自然資料救済ネットワーク

「千葉歴史・自然資料救済ネットワーク」

10：北総地域資料・文化財保全ネットワーク

「成田空港の大規模拡張に伴う集落移転と地域資料の保全活動
—2025 年度の活動を中心に—」

11：NPO 法人歴史資料継承機構じゃんびん

12：新潟歴史資料救済ネットワーク

「新潟歴史資料救済ネットワーク」

13：いしかわ歴史資料保全ネットワーク

「いしかわ歴史資料保全ネットワーク」

14：地域史料保全有志の会

15：信州資料ネット

「市民ボランティアと博物館 深化する技術と連携 2025」

16：東海歴史資料保全ネットワーク

「東海歴史資料保全ネットワークの紹介」

17：甲州史料調査会

18：歴史資料ネットワーク

19：歴史資料保全ネット・わかやま

「活動報告（歴史資料保全ネット・わかやま）」

20：岡山史料ネット

「2025 年度岡山史料ネットの活動について」

21：広島県立文書館

22：愛媛資料ネット

「記録と記憶—歴史資料を守るために—愛媛資料ネット」

23：宮崎歴史資料ネットワーク

「地域の資料ネットとして継承をどう考えていくか」

24：鹿児島歴史資料防災ネットワーク

25：結 creation

「水損紙資料の初期対応と、人材育成についての取り組み」

ポスター発表者プロフィール

小峰幸夫（こみね・ゆきお）

国立文化財機構文化財防災センターアソシエイトフェロー／（併）奈良国立博物館学芸部文化財課保存修復室研究員

専門は応用昆虫学。公益財団法人文化財虫菌害研究所、国立文化財機構東京文化財研究所生物科学研究室を経て現職。これまで文化財害虫、特にシバンムシ科甲虫の生態と防除対策を研究してきました。現職ではその他に、被災資料を保存するための幅をもたせた環境条件・保管可能期間の抽出の研究と、新たな殺虫法の湿度制御した温風処理の普及に関わっています。

佐藤真海（さとう・まさみ）

山形文化遺産防災ネットワーク事務局長／山形大学学術研究院（人文社会科学部主担当）講師

2021年11月に山形文化遺産防災ネットワークの世話人となって以来、当ネットの運営に携わっています。専門は日本古代史です。

阿部浩一（あべ・こういち）

ふくしま歴史資料保存ネットワーク代表、そうま歴史資料保存ネットワーク幹事／福島大学行政政策学類教授

1967年東京生まれ。専門は日本中世史。著書に『戦国期の徳政と地域社会』（吉川弘文館、2001年）、編著書に『ふくしま再生と歴史・文化遺産』（山川出版社、2013年）、責任編集に『大学の福島ガイド』（昭和堂、2024年）、論文に「ふくしまの現場から振り返る11年—できたこと、できなかったこと—」（『史学』92巻1・2号、2023年）など。

武内義明（たけうち・よしあき）

そうま歴史資料保存ネットワーク／福島県立相馬高等学校講師

1957年、福島県相馬市生まれ。県立高校の国語の教員として福島県内で勤務したのちに、常勤講師として勤務。東日本大震災、2021・2022年と続いた宮城・福島県沖地震によって歴史ある相馬の文化財が被害を受けている状況を受けて活動を立ち上げました。民間の任意団体としてスタートし3年目です。宮城ネット、ふくしまネットのご指導を受けながら活動を行っています。

品川完太（しながわ・かんた）

茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク（茨城史料ネット）学生幹事／茨城大学人文社会科学部4年生

2004年、広島県生まれ。茨城大学進学とともに茨城県へ。大学では日本古代中世史を学んでいます。二年次から茨城史料ネットの活動に参加。常陸太田市天神林町の文珠院から発見された経典類の整理作業に従事し、昨年度夏には茨城大学図書館と常陸太田市郷土資料館での特別展示で展示解説を担当しました。

堀野周平（ほりの・しゅうへい）

とちぎ歴史資料ネットワーク運営委員／鹿沼市教育委員会事務局文化課主任主事

1988年千葉県生まれ。流山市、千葉県での勤務を経て2014年より現職。専門は日本近世・近代史。文化財保護行政の一環として地域に残る未指定の民間所在資料の調査・保存と活用をおこなっています。令和元年東日本台風の際は、被災した小学校資料のレスキューを実施しました。

作間亮哉（さくま・かつや）

那須資料ネット事務局長／那須歴史探訪館学芸員

1993年宮城県仙台市生まれ。専門は日本近現代史。第14師団や戦後開拓、教育版画運動に興味を持っています。2019年の東日本台風では、栃木県・茨城県においてレスキュー活動に従事しました。業務では、勤務自治体内外の住民の皆様と黒羽藩名家文書のクリーニング作業を週2回実施しています。

小嶋圭（こじま・けい）

群馬歴史資料継承ネットワーク運営委員／群馬県立文書館古文書係主任

1990年、群馬県太田市出身。専門は日本近世史。2020年7月、ぐんま史料ネットの発足以来、運営委員を務めています。群馬県地域創生部文化財保護課（前職）では、群馬県文化財防災ネットワーク連携協議会を立ち上げ、ぐんま史料ネットを含めた地域防災体制の構築を進めました。

森脇孝広（もりわき・たかひろ）

北総地域資料・文化財保全ネットワーク共同世話人／高崎経済大学等非常勤講師

1975年、北海道出身。専門は日本現代史。千葉県の歴史編さん機関・史料保存機関で勤務経験あり。三里塚闘争（成田空港反対運動）にかかわる資料整理・研究に2018年から関わっています。また、成田空港で三本目の滑走路建設が進むなか、移転する集落の歴史資料・文化財・風景・記憶を保全するための取り組みを2024年から進めています。

西村慎太郎（にしむら・しんたろう）

NPO 法人歴史資料継承機構じゃんぴん代表理事／甲州史料調査会元事務局長／総合研究大学院大学教授

1974年、東京都青梅市生まれ。専門は歴史学。主な編著書は『「大字誌浪江町権現堂」のススメ』1・2（いりの舎、2021年・2023年）、『そもそもお公家さんってなに？—近世公家のライフ＆ワーク—』（現代書館、2023年）、『古文書解読事始め—福島県大熊町の古文書で学ぶくずし字入門』（蕃山房、2024年。大関真由美・菅井優士共編著）ほか。

原直史（はら・なおふみ）

新潟歴史資料救済ネットワーク事務局長／新潟大学人文学部教授

1962年東京都生まれ。専門分野は日本近世史。2004年の新潟県中越地震に際して結成された新潟歴史資料救済ネットワークの事務局員を当初から勤め、2019年より事務局長。ボランティア史料調査団体「房総史料調査会」「越佐歴史資料調査会」の立ち上げにそれぞれ関わり、現在後者の世話人としても活動中。

吉田朋生（よしだ・ともお）

いしかわ歴史資料保全ネットワーク運営委員／石川県立歴史博物館学芸員

1996年、北海道札幌市生まれ。専門は日本近世史。職場の博物館で文化財レスキューに取り組みつつ、その意義について普及啓発に努めています。企画に関わった夏季特別展「未来へつなぐ—能登半島地震とレスキュー文化財—」（2025年7月26日～8月31日）では、史料ネットのご協力による資料整理や下張り剥がしの成果をご紹介しますことができました。

岡部恵海（おかべ・めぐみ）

地域史料保全有志の会運営委員／神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科博士前期課程（修士）2年
2025年の春から地域史料保全有志会に参加しています。史料整理活動を通して、地域の方々から多くのことを教えていただきながら、地元のイベントにも参加し、交流を深めてきました。活動は楽しく、学びも多く、地域の暮らしや歴史を史料を通して身近に感じられる貴重な経験となっています。

原田和彦（はらだ・かずひこ）

信州資料ネット／長野市立博物館

現在、長野市立博物館に勤務しています。令和元年に発生した洪水により水損した多くの資料を、地元ボランティアの皆さんと緊急処置を進めています。松代藩政を中心に勉強しています。学生時代は、日本古代史（平安時代）を研究してきました。

可児光生（かに・みつお）

東海歴史資料保全ネットワーク／美濃加茂市民ミュージアム館長

1956年、岐阜県生まれ。岐阜県博物館協会加盟館及び会長として岐阜県内の博物館における資料保存活動を行っています。著書に「地域共有財産として生かされるデータベースをめざして」『博物館とコレクション管理』（雄山閣、2022）などがあります。

西口正隆（にしぐち・まさたか）

甲州史料調査会事務局／NPO 法人歴史資料継承機構じゃんぴん理事

1994年埼玉県生まれ。専門は日本近世史。普段は土浦市立博物館の学芸員として、土浦藩地域を中心とした研究を行っています。

吉成香澄（よしなり・かすみ）

甲州史料調査会事務局／国文学研究資料館事務補佐員

1980年埼玉県蕨市生まれ。専門は日本近世史。2003年から甲州史料調査会に参加し、2013年から2025年まで事務局長をつとめる。

戸部愛菜（とべ・あいな）

歴史資料ネットワーク事務局員

1998年、神奈川県生まれ。専門：日本近現代史。今年度より博物館で学芸員として勤務しています。明治20年代以降の神戸市域とその周辺の地域史・産業史を専門にしつつ、震災資料など現在の史料保全にも関心を持っています。

松岡弘之（まつおか・ひろゆき）

岡山史料ネット事務局／岡山大学文学部准教授

1976年、広島県福山市生まれ。専門は日本近現代史。国立公文書館長認証アーキビスト。大阪市、尼崎市で自治体史編さんや文書館で勤務したのち、2020年より岡山大学にうつり、ボランティアのみなさんと岡山史料ネットの活動に取り組んでいます。

西向宏介（にしむかい・こうすけ）

広島県立文書館／広島歴史資料ネットワーク

1965年兵庫県姫路市生まれ。専門は日本近世史。2018年西日本豪雨災害時に、広島県立文書館で文書レスキューを行い、広島歴史資料ネットワークと共に被災文書の保全活動に従事してきました。2023年度からは文書館ボランティアの活動を開始し、収蔵文書の整理を中心に様々な取り組みを行っています。

大本敬久（おおもと・たかひさ）

愛媛資料ネット委員／愛媛大学地域協働推進機構特定准教授・愛媛大学地域協働コーディネーター

1971年愛媛県生まれ。専門は民俗学・日本文化論。著書に『愛媛の民俗―冠婚葬祭編―』（愛媛県文化振興財団、2024年）他。災害史や防災文化の普及啓発を行う「四国防災八十八話・普及啓発研究会」メンバー。西予市「本家緒方蔵」、大洲市「古学堂」など、地域の文化遺産を活用した西日本豪雨からの復興支援活動を進めている。

竹井眞知子（たけい・まちこ）

宮崎歴史資料ネットワーク

1961年大阪生まれの宮崎育ち。大学で考古学、大学院で保存科学を学び、宮崎県教育庁で2002年度まで埋蔵文化財専門員として遺跡の調査や保護に携わりました。関心は専ら考古資料でしたが、退職後に自治体史の編さんに関わったことで紙の史資料や民俗資料の重要性を実感するようになりました。宮崎歴史資料ネットワークのメンバーとなって約10年。その時々にはできる人ができることをする、という柔軟な形なので無理せず続けてこれました。昨年度からは宮崎県の文化財保護指導員を委嘱され、指定文化財を巡回パトロールしています。今後の保存が心配なものも散見され、大切な歴史資料を未来に残していくために自分ができることは何かを考えるこの頃です。

伴野文亮（とももの・ふみあき）

鹿児島歴史資料防災ネットワーク／鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター特任准教授

静岡県静岡市（旧清水市）出身。2023年4月から鹿児島に居住し、島嶼部を含めた県内と県外に遺る鹿児島ゆかりの歴史資料の保全活動に取り組んでいます。また、静岡県立浜名高校史学部 of 外部講師を務めながら、高校生に一次資料の保全と活用の意義を教えています。今後も、地元の郷土研究会や自治体と連携しながら、地域の歴史文化を保全し未来に伝えるための枠組みづくりに積極的に携わっていきます。

北村美香（きたむら・みか）

合同会社結 creation 代表／高槻市立自然博物館

1975年京都市生まれ。専門：博物館学（教育）。国土交通省の広報施設や滋賀県平和祈念館で学芸員としての勤務を経て、合同会社結 creation 設立。高槻市立自然博物館で学芸員を兼務。身近な環境や地域の文化を学ぶ取り組みなどをこれまで企画・実施してきた。東日本大震災では、被災博物館の教育普及活動支援等に参加。地域の方と一緒に地域の資料を守っていく取り組みとして、被災時の初動活動についての勉強会を開催。共編著に『図説河川災害と復興：自然環境の再生と持続社会』2024年、朝倉書店など。

第 12 回全国史料ネット研究交流集会実行委員会

委員長：筒井秀一

（こうちミュージアムネットワーク会長／高知市立自由民権記念館長）

委員：谷地森秀二

（こうちミュージアムネットワーク幹事長／越知町立横倉山自然の森博物館）

委員：望月良親（高知地域資料保存ネットワーク／高知大学）

委員：楠瀬慶太（高知地域資料保存ネットワーク／高知工業高等専門学校）

委員：渡邊哲哉（こうちミュージアムネットワーク／高知県立図書館）

委員：濱田実侑（こうちミュージアムネットワーク／高知市立自由民権記念館）

委員：田井東浩平（こうちミュージアムネットワーク／高知県立高知城歴史博物館）

監事：亀尾美香（こうちミュージアムネットワーク／高知県立歴史民俗資料館）

・ 人間文化研究機構 要覧



・ 予稿集・関連リンク＆ポスター発表サイト



・ こうちミュージアムネットワーク HP ・ 高知地域資料保存ネットワーク facebook



・ 歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業 HP



第12回全国史料ネット研究交流集会 in 高知 予稿集

発行日：2026年1月11日

編集：人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト

「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」

〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117 国立歴史民俗博物館
